



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒 【寛容】明朗で思いやりのある生徒 【挑戦】健康でたくましい生徒

〈重点目標〉自ら考え、判断し、目標に向かって実践する生徒 ～夢の実現～

# 原町三中だより

令和5年3月10日(金)  
第44号  
発行責任者  
校長 志賀 嘉津美  
電話 22-3802

## 3年間の集大成 いよいよ卒業式です

日本を訪れる海外の方々がよく口にするのは、日本人の礼儀正しさ・マナーの良さです。そんな話を耳にすると、同じ日本人として誇らしげに感じてしまう方も多いのではないのでしょうか。これは、「儀式的行事」を通して集団での「礼儀や作法」を育んできた学校教育の成果の一つと言われています。

卒業式は、「儀式的行事」の集大成として特別な意味を持つ学校行事です。3年生は、この3年間で立派に成長した姿を示す場となります。先輩が築き上げた伝統を受け継ぐ在校生の姿を示す場でもあります。

3月13日は、第62回卒業証書授与式です。入退場、国歌・式歌・校歌、送辞・答辞、そして、これまでに培ってきた「礼儀や作法」で、立派に式を執り行い卒業生の門出を祝福したいと思います。

## 自信と誇りを胸に！ ～同窓会入会式～

3月9日(木)、同窓会役員の方々のご臨席のもと、同窓会入会式を実施しました。入会式では、副会長の萱山様から入会の許可を受け、「栄光の記録プレート」と「入会記念品」を卒業生代表の堀内さんへ授与されました。新入会員を代表して齊藤さんが「私たち20名は、原町第三中学校の伝統を引き継ぎ、誇りを持って努力していくこと、そして支えてくださった方々への感謝を忘れず、同窓生として、未来に羽ばたいていくことをここに誓います。」と誓いの言葉を述べました。

原町第三中学校は太田中学校と大甕中学校が統合して、今年で62年目を迎えます。7,600名を超える先輩方が見守ってくださいます。原町三中の卒業生として、自信と誇りを持って、活躍してほしいと思います。そして、今度は同窓会員として、原町三中を見守り、応援してください。



## 東日本大震災追悼集会 ～震災当時の様子を伝えました～

3月10日(金)、追悼集会として、12年前の東日本大震災についての校長講話を行いました。「原町三中は、私にとって二度目の勤務です。東日本大震災があった平成23年の8月に1学年担任として着任し、4年8ヶ月間勤務をしました。赴任当時の原町三中は緊急時避難準備区域内にあり、学区は津波による被害を受けた地域や避難指示区域を含んでいました。」と話しを始めました。そして、4月22日に鹿島中学校を間借りして学校が再開してから、翌年の2月27日に原町三中の本校舎へ帰還するまでの10ヶ月間、仮設校舎等での学校生活を中心に講話を進めました。他にも、毎日、バスで原三中から鹿島中に送迎されていたこと、スタート当初はおにぎりの炊き出し給食であったことなど、決して快適とは言えなかった学校生活について話しをしました。

そして、幼い我が子を必死で守ってきたお父さん・お母さん、家族のおかげで今こうして学校に通うことができていること、先輩方や地域の方に支えられてこの原町三中があることを生徒たちに伝えました。最後に、震災で失われた多くの尊い命に、全員でご冥福を祈り講話を閉じました。

(↓下の写真は、講話で使用したスライドの一部です。)



鹿島中で学校再開



炊き出し給食



トイレも仮設です